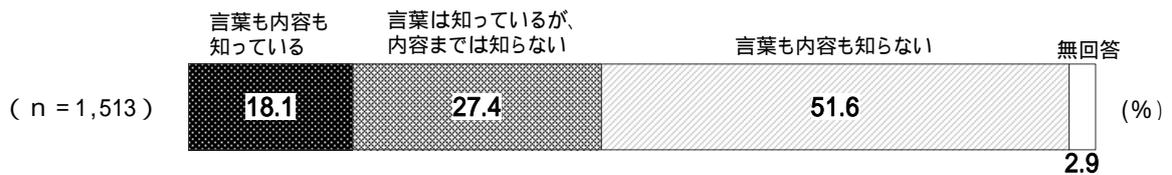


10.【ワーク・ライフ・バランスについて】

(1) ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度

問33 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を知っていますか。（ は1つ）

<図表 33 - 1> ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の言葉の認知について聞いたところ、「言葉も内容も知っている」（18.1%）は、約2割、「言葉は知っているが、内容までは知らない」（27.4%）は約3割となっている。（図表33 - 1）

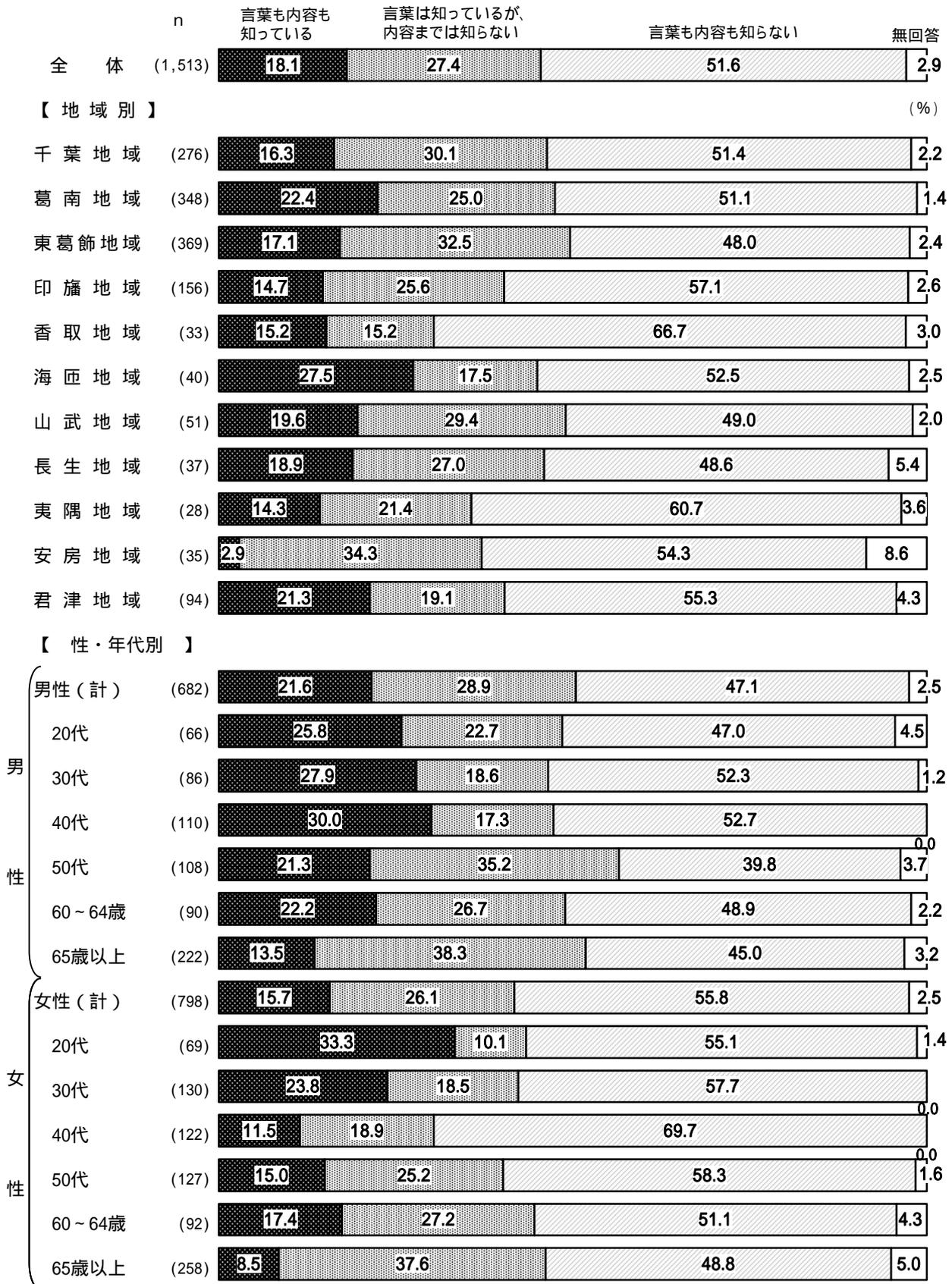
【地域別】

地域別にみても、「言葉も内容も知っている」で“海匠地域”（27.5%）が約3割と他の地域に比べ最も多くなっている。（図表33 - 2）

【性・年代別】

性・年代別にみても、「言葉も内容も知っている」で女性20代（33.3%）、男性40代（30.0%）が3割以上と他の年代に比べ多くなっている。（図表33 - 2）

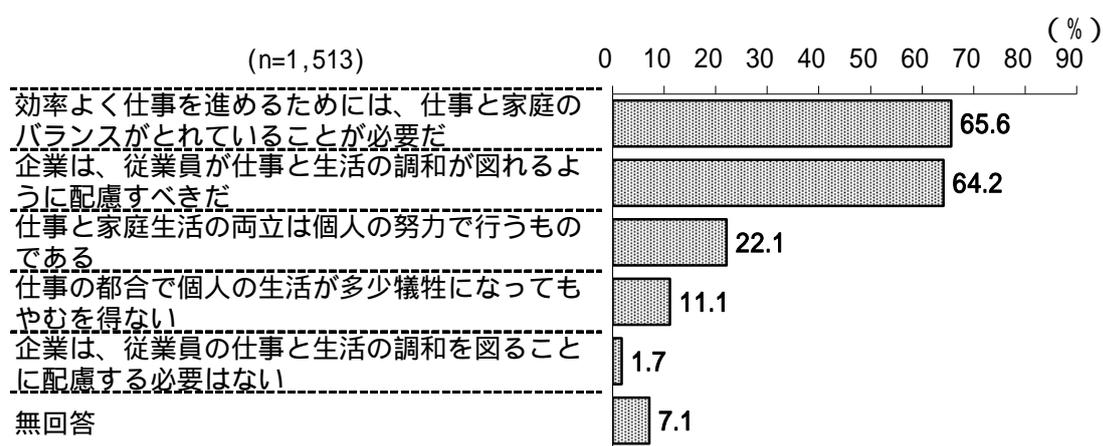
<図表 33 - 2> ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度 / 地域別、性・年代別



(2) ワーク・ライフ・バランスについて賛成できること

問 34 ワーク・ライフ・バランスについて、賛成できる意見を次の中から選んでください。
(はいいくつでも)

<図表 34 - 1> ワーク・ライフ・バランスについて賛成できること



ワーク・ライフ・バランスについて、賛成できる意見を聞いたところ、「効率よく仕事を進めるためには、仕事と家庭のバランスがとれていることが必要だ」(65.6%)、「企業は、従業員が仕事と生活の調和が図れるように配慮すべきだ」(64.2%)が共に6割台半ばと多くなっている。(図表34 - 1)

【地域別】

地域別にみても、「効率よく仕事を進めるためには、仕事と家庭のバランスがとれていることが必要だ」において、“山武地域”(82.4%)が8割を超えており、他の地域に比べ多くなっている。

(図表34 - 2)

【性・年代別】

性・年代別にみても、「企業は、従業員が仕事と生活の調和が図れるように配慮すべきだ」にて女性20代(75.4%)、30代(76.9%)、男性20代(75.8%)、30代(75.6%)、40代(75.5%)が7割台半ばと他の年代に比べ多くなっている。(図表34 - 2)

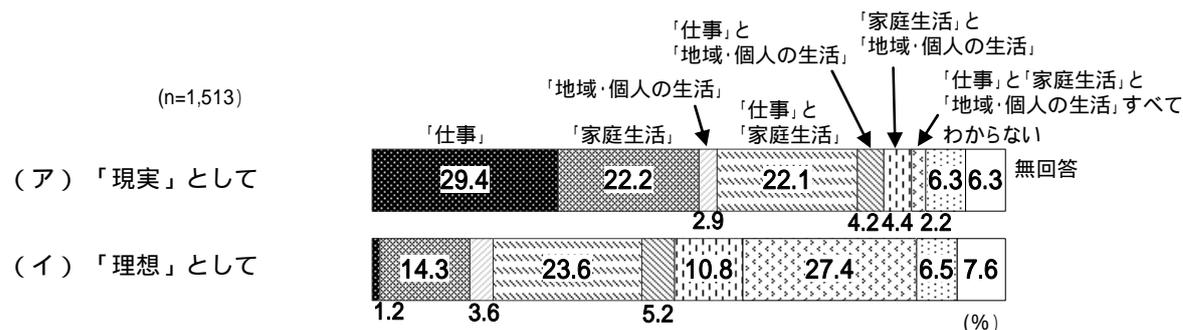
(3) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先度

問 35 生活の中の「仕事」、「家庭生活（家事・子育て・介護等）」、「地域・個人の生活（趣味・ボランティア等）」の優先度について伺います。

「現実」では何を優先していますか。また、「理想」では何を優先させたいですか。

(はそれぞれ1つ)

<図表 35 - 1> 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」優先度



生活の中の「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について聞いたところ、現実として<「仕事」を優先>(29.4%)が約3割、理想として<「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて>(27.4%)が約3割となっている。(図表35-1)

【地域別】

地域別にみても、現実として<「仕事」を優先>では“安房地域”(40.0%)が4割と他の地域に比べ多くなっている。理想として<「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて>では、“香取地域”(39.4%)と“山武地域”(37.3%)が約4割と他の地域に比べ多くなっている。

(図表35-2)

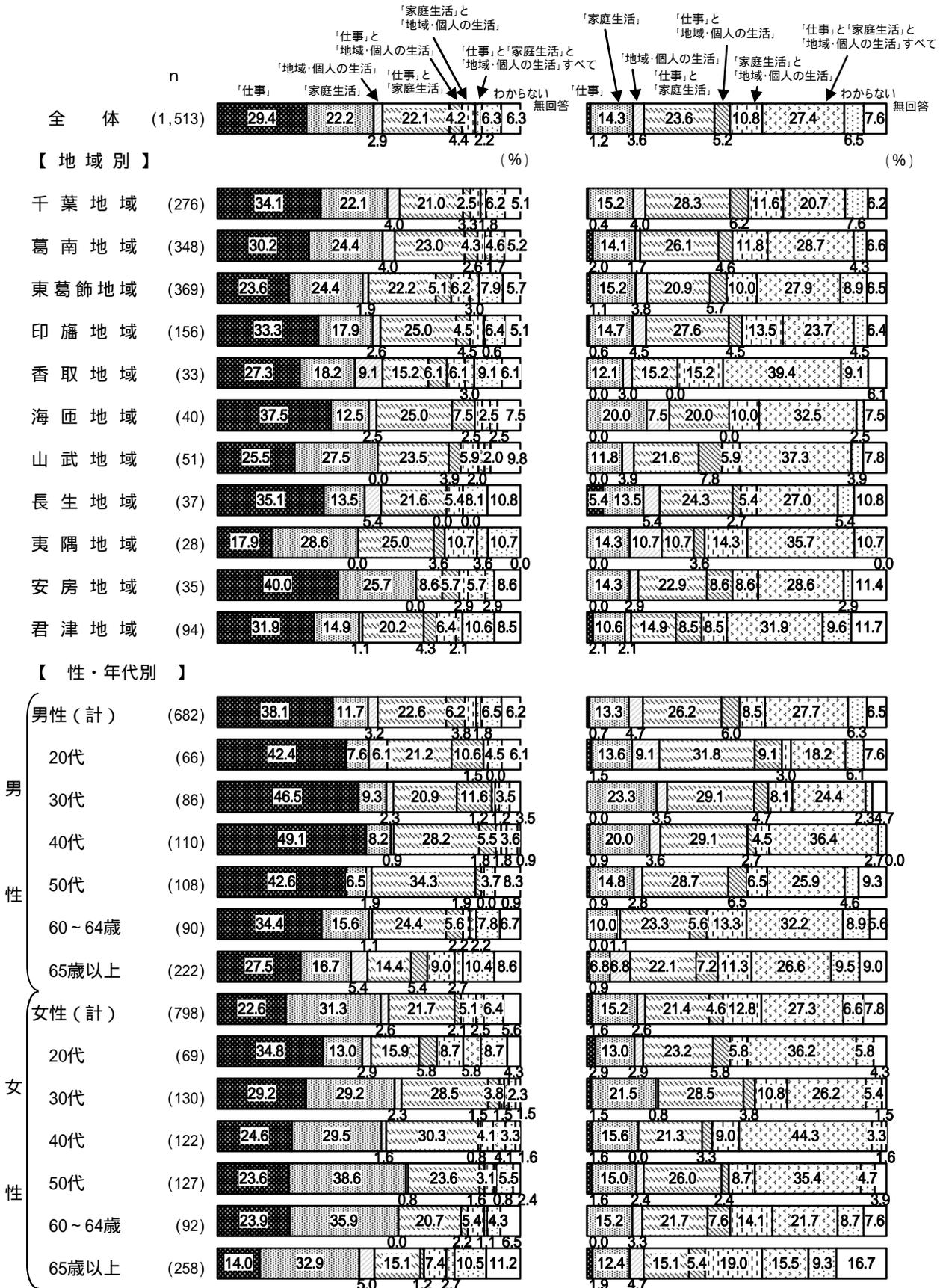
【性・年代別】

性年代別にみても、現実として<「仕事」を優先>では男性40代(49.1%)が約5割、<「家庭生活」を優先>が女性50代(38.6%)と他の年代に比べて多くなっている。理想として<「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて>では、男性では40代(36.4%)が3割台半ば、女性では40代(44.3%)が4割台半ばと他の年代に比べ多くなっている。(図表35-2)

<図表 35 - 2> 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」優先度 / 地域別、性・年代別

(ア)「現実」として

(イ)「理想」として

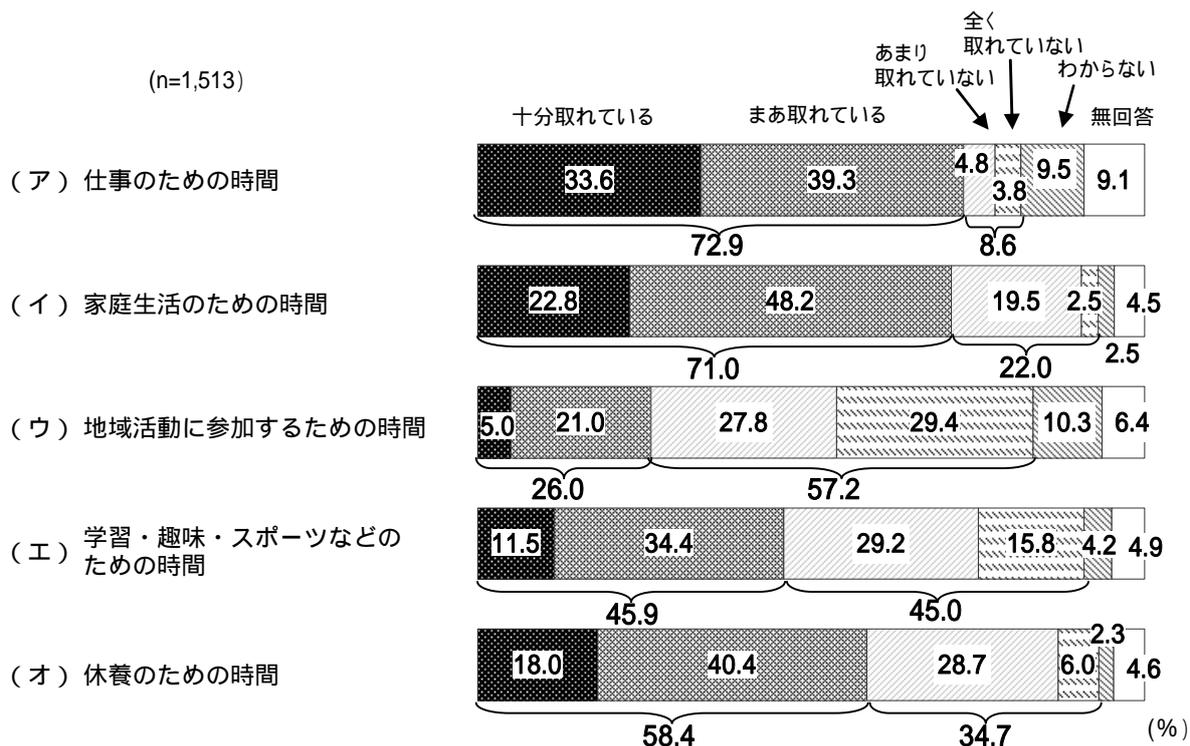


(4) 「仕事」「家庭生活」「地域活動」「学習・趣味・スポーツ」「休養」

といった時間の確保

問 36 あなたの生活では、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習、趣味、スポーツなど」、「休養」の時間は十分に取れていますか。(はそれぞれ1つずつ)

<図表 36 - 1> 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツ」、「休養」といった時間の確保



普段の生活で「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツ」、「休養」といった時間の確保が出来ているかどうか聞いたところ、「十分取れている」と「まあ取れている」を合わせた『取れている』が多かったのは、<(ア)仕事のための時間>(72.9%)、<(イ)家庭生活のための時間>(71.0%)で、共に7割を超えている。(図表36-1)

【地域別】

地域別にみたところ、<(ア)仕事のための時間>では『取れている』が“安房地域”(85.8%)、“海匝地域”(85.0%)、“君津地域”(84.1%)の3つの地域で8割台半ばと他の地域に比べ多くなっている。<(イ)家庭生活のための時間>は、『取れている』が“君津地域”(75.5%)、“東葛飾地域”(74.0%)、“千葉地域”(73.9%)の3つの地域で7割台半ばと他の地域に比べ多くなっている。<(ウ)地域活動に参加するための時間>は、『全く取れていない』と『あまり取れていない』を合わせた『取れていない』が“葛南地域”(63.5%)が他の地域に比べ多くなっている。<(エ)学習・趣味・スポーツなどのための時間>では、『取れている』で“夷隅地域”(53.6%)が5割台半ばで他の地域に比べ多くなっている。<(オ)休養のための時間>は、『取れている』で“香取地域”(72.7%)が7割を超えて他の地域に比べ多くなっている。(図表36-2)

【性・年代別】

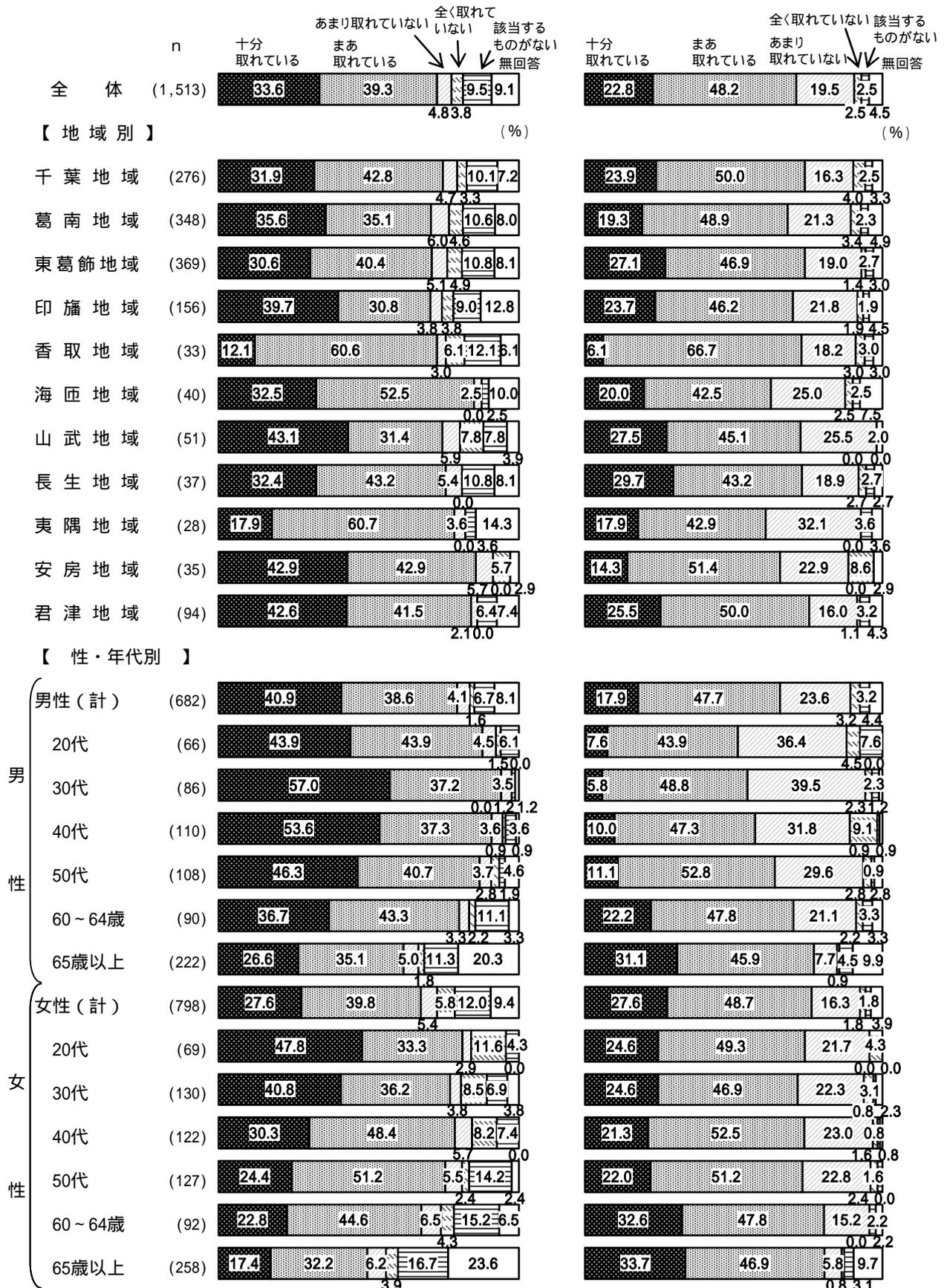
性年代別にみると、＜（ア）仕事のための時間＞は『取れている』で男性では30代（94.2%）が9割台半ば、女性では20代（81.1%）が8割を超えており他の年代に比べて多くなっている。＜（イ）家庭生活のための時間＞は、『取れている』の女性60歳以上（60～64歳80.4%、65歳以上80.6%）が8割、男性65歳以上（77.0%）が約8割と他の年代に比べて多い。＜（ウ）地域活動に参加するための時間＞では『取れていない』で男女20代（男性83.3%、女性82.6%）が共に8割を超えて他の年代に比べて多くなっている。＜（エ）学習・趣味・スポーツなどのための時間＞では、『取れている』で男女65歳以上（男性59.4%、女性55.5%）が5割以上と他の年代に比べて多くなっている。＜（オ）休養のための時間＞は、『取れている』で男女65歳以上（男性73.9%、女性73.6%）が共に7割台半ばと他の年代に比べ多くなっている。（図表36 - 2）

<図表 36 - 2> 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツ」、「休養」といった

時間の確保 / 地域別、性・年代別

(ア) 仕事のための時間

(イ) 家庭生活のための時間

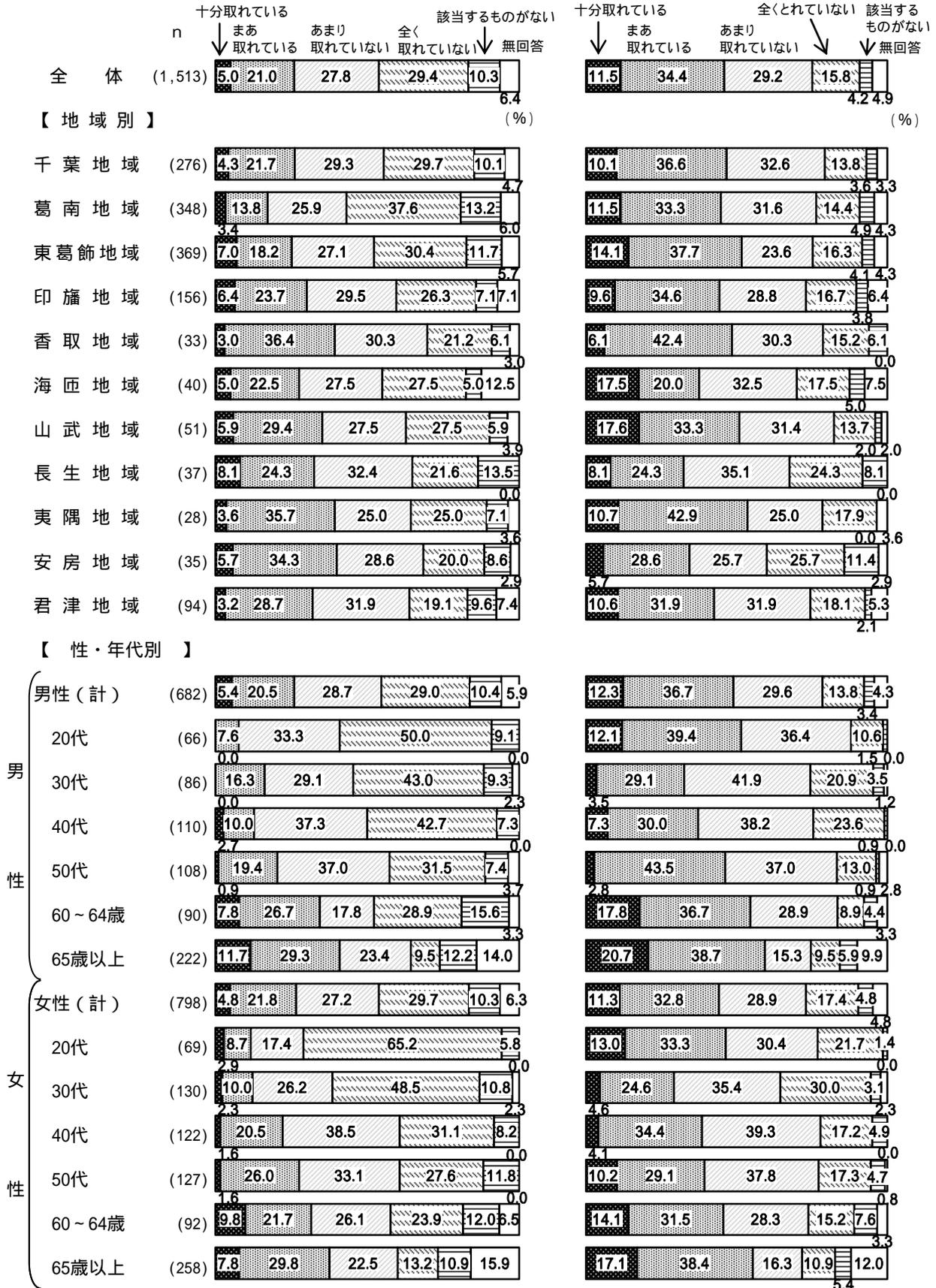


<図表 36 - 2> 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツ」、「休養」といった

時間の確保 / 地域別、性・年代別

(ウ) 地域活動に参加するための時間

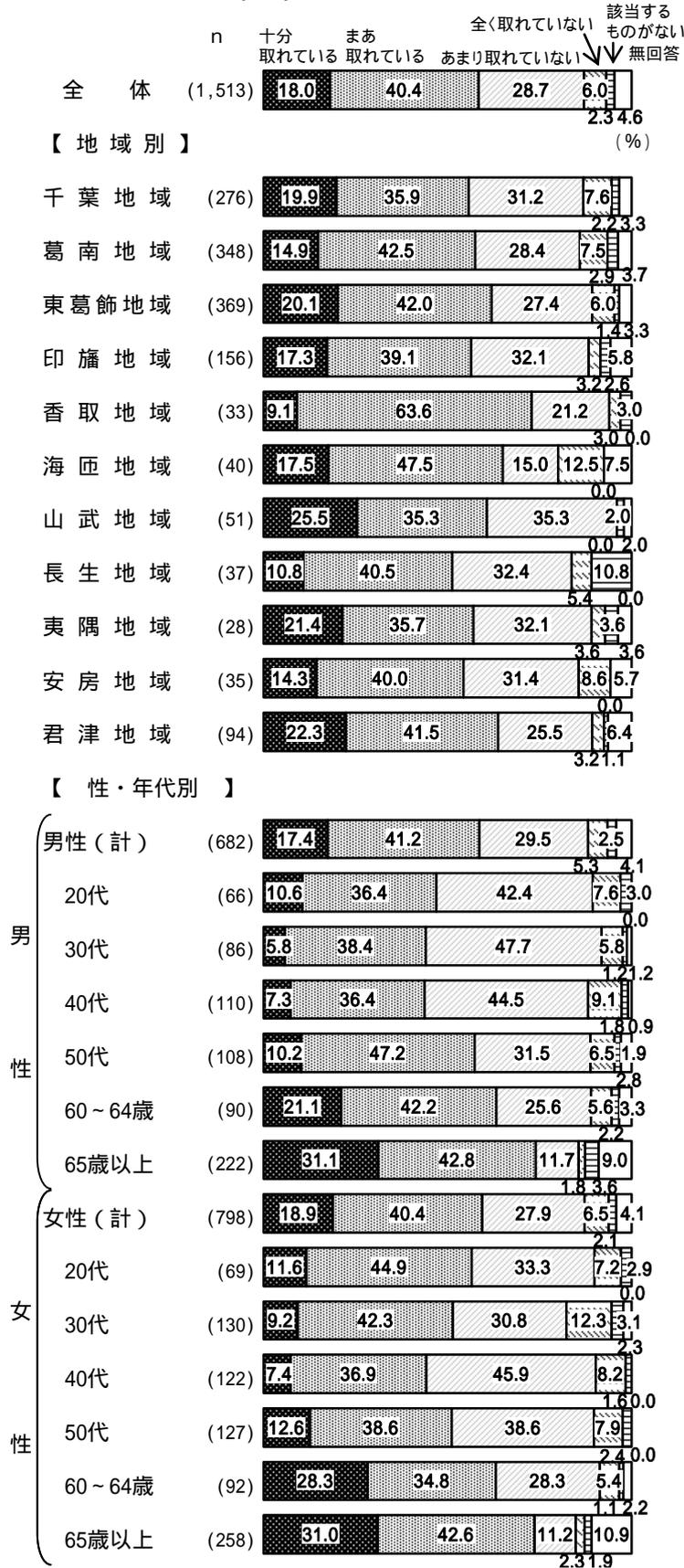
(エ) 学習・趣味・スポーツなどのための時間



<図表 36 - 2> 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツ」、「休養」といった

時間の確保 / 地域別、性・年代別

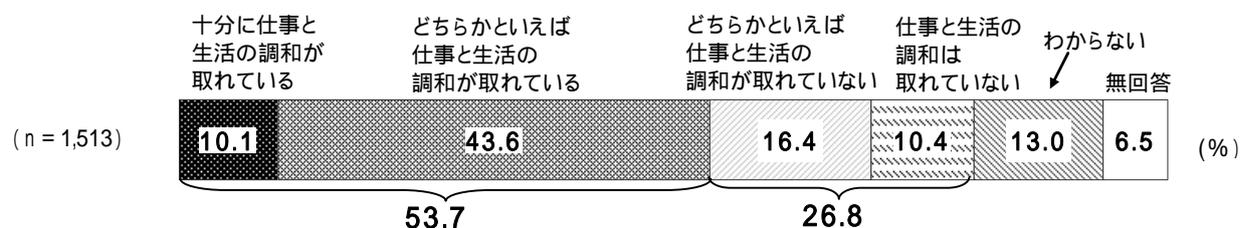
(オ) 休養のための時間



(5) ワーク・ライフ・バランスの実現具合

問 37 結果として、あなたの生活の中で、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）はどの程度実現されていますか。（ は1つ）

<図表 37 - 1> ワーク・ライフ・バランスの実現具合



ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現具合を聞いたところ、「十分に仕事と生活の調和が取れている」（10.1%）と「どちらかといえば仕事と生活の調和が取れている」（43.6%）を合わせた『調和が取れている』（53.7%）は、5割台半ばとなっている。一方で「仕事と生活の調和は取れていない」（10.4%）と「どちらかといえば仕事と生活の調和が取れていない」（16.4%）を合わせた『調和が取れていない』（26.8%）が2割台半ばとなっている。（図表37 - 1）

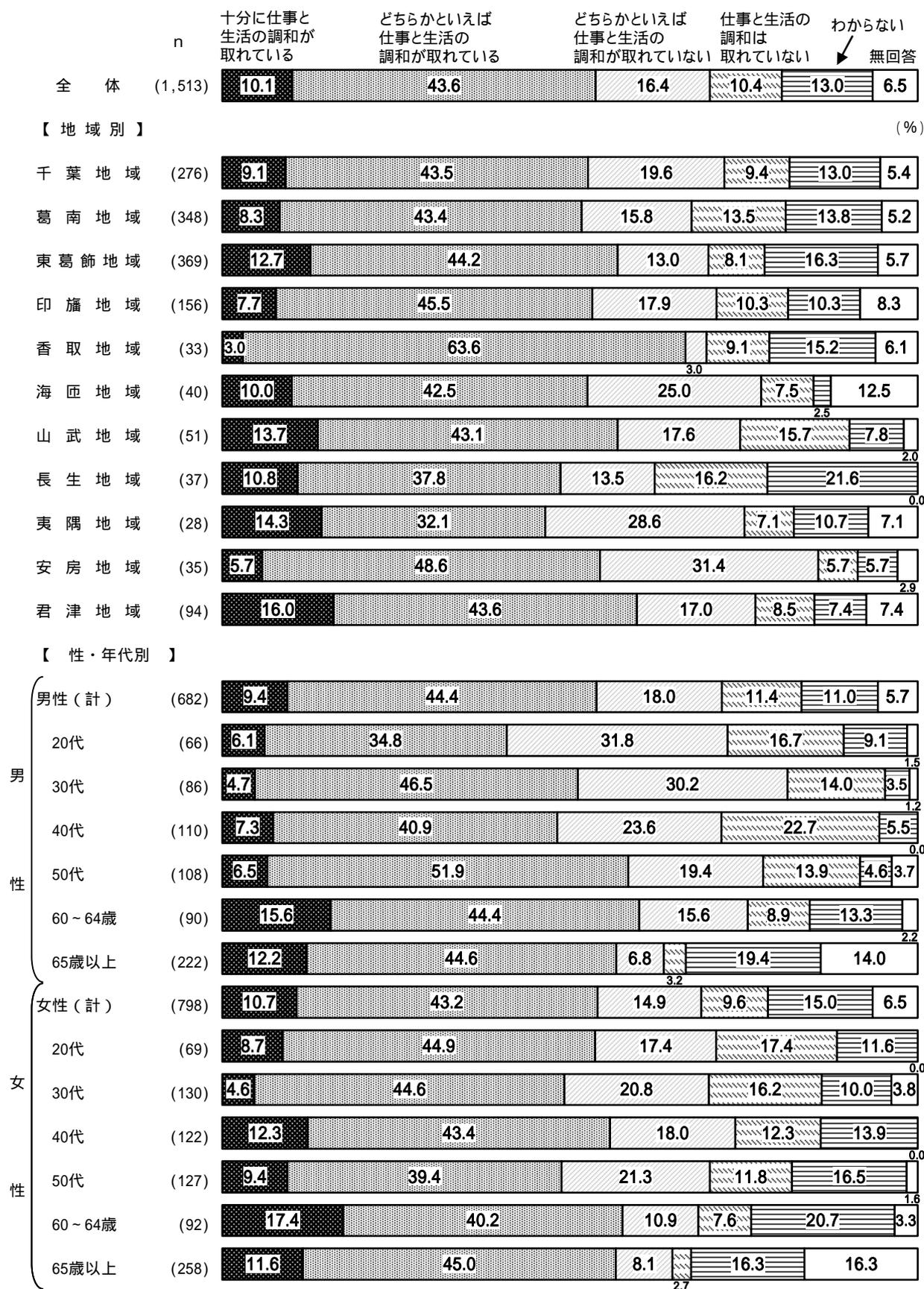
【地域別】

地域別にみても、『調和が取れている』で“香取地域”（66.6%）が6割台半ばと他の地域に比べ多くなっている。（図表37 - 2）

【性・年代別】

性・年代別にみても、『調和が取れている』は男女とも60～64歳（男性60.0%、女性57.6%）が他の年代に比べ多くなっている。（図表37 - 2）

<図表 37 - 2> ワーク・ライフ・バランスの実現具合 / 地域別、性・年代別



このほかに、「ワーク・ライフ・バランスについて」やここまでの質問（問33～問37）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、121人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「ワーク・ライフ・バランスについて」の自由回答（抜粋）

「ワーク・ライフ・バランス」について、日常生活の中ではあまり聞かないように思う。TVでそのような話が出ていることがあるように思う。リストラで仕事は残業等多くなっていて、寝に帰るだけの平日になっている事も多い。量を減らし、人を増やし、分担に出来れば、多くの人が従事し、家庭時間の確保になるが、お給料が減る事で生活がきつくなるとは、家庭生活も楽しめない。

（女性・50代・葛南地域）

今はどちらかといえば不満はないですが、これから子供を持つ身なので、子育てと親の介護等含むと、仕事を続けていけるのかどうか不安を感じます。（女性・30代・東葛飾地域）

仕事と生活の調和の必要性について、学校教育の中や会社の社員教育の中で教育していくことも必要だと思いました。（男性・50代・香取地域）

あまり偏った考えで自己の主張を出すべきではない。我慢すべきことは抑えて、計画的にバランスを考えるべきだ。（男性・65歳以上・千葉地域）

ライフステージ毎に優先事項は変化すると思う。それぞれのステージ（子育てや介護に関わるような時）は、仕事の優先順位は下がると思うので、柔軟な対応を企業がしてくれたらいいと思う。

（女性・20代・印旛地域）

残業が多く、家庭での時間があまり取れず、ゆっくりと休養できる時間が少ない。企業や団体ごとには、時には休養の時間も推進して頂ければと思う。（女性・20代・君津地域）

仕事と家庭生活のバランスを取るための1つとして、行政が育児支援をもう少し推進してくれるとよい（自分達の努力だけでは解決できないこともあるので）。（男性・40代・葛南地域）

仕事と家庭の両立、特に幼子を3人も抱える今は、母親はとても忙しすぎて疲れています。でも働かなければ養えないので…。仕事自体はやりがいがあります。仕事を続けるためには頑張るしかない。（女性・30代・海匝地域）

日本人には特に仕事を優先＝当たり前という認識が強いと思う。残業して当たり前、休みに仕事して当たり前。そういう上司がたくさんいる。（女性・30代・葛南地域）

人数がギリギリでやっている会社が多く、欠員ができにくく、体調を崩しても休めない風潮を改善してほしい。（男性・20代・葛南地域）

まだまだ男性の家事・育児への参加意識が低い。「家族サービス」等の死語が未だ職場で使われている。家族との時間を増やすために仕事を効率よく進める努力が必要だが、周囲の男性の意識を変えるためには、職場では管理職に対する研修が大切だ。（男性・30代・千葉地域）